



神室のいずみ

令和7年9月号

山形県神室少年自然の家

〒999-5301 最上郡真室川町大字川ノ内字水上山 3414-5

TEL0233-62-2611 FAX0233-62-2613

<https://www.kamuro-nature.jp/>

自然体験活動の意義を実感 「めんごキャンプ ②」!!

9/6(土)「めんごキャンプ②」を開催しました。この事業の対象は、年中から小学2年生までの親子です。「親子で、それぞれのチャレンジデー!」というコンセプトで、親子分かれて、親同士、子ども同士で活動しました。この事業のねらいは以下の通りです。

子 : 家族と離れても、自分のことは自分でやろう!

親 : 体験の意義と子育てについて考える一日にしよう!

次に紹介するような感想や姿があり、ねらいを達成できたと感じています。あらためて、自然体験活動の意義を感じた事業となりました。

こどもプログラム

- ・スペシャル水遊び
- ・たき火でおやつ など



活動中の子どもの様子

- ・「今朝、家族と別れて活動するのが不安で泣いたんだよ。」と教えてくれた子
→ 子ども同士の活動に慣れると、笑顔で、そして川流れにも挑戦していました。
- ・川の中の生き物を捕まえたい子
→ 先に捕まえた子に「どうすれば捕まえられるの。」と聞いたり、捕まえ方を見てまねたりして、見事捕まえることができました。
- ・川流れをしたいけど、怖がってなかなかできなかった子
→ 「一度、手を支えてもらおうとできそうな気がするんだけど。」と言って支援を求め、支えてあげるとできるようになりました。その後は川流れに何度も挑戦していました。
- ・たき火への挑戦
→ 「火」は怖いものとして教わり、たき火の経験がない子がほとんどでしたが、勇気を出して点火し、薪に火をうつすことができました。マシュマロをあぶって食べることで、火は使い方で「怖いもの」にも「ありがたいもの」にもなることに気づきました。

親プログラム

- ・ストーンアート制作（子へのプレゼント）
- ・展望台トレッキング
- ・子育てワイワイトーク
- ・ワークショップ

参加された保護者の方の多くが、自然体験活動の価値や活動を後押しする支援、そして、子どもが体験を通して感じたことを言語化して引き出すことの大切さを感じていました。

また、自分自身も自然体験や交流活動の楽しさを味わっていただいたようでした。



「親プログラム」に参加した保護者の方の感想（抜粋）

- ・オープンクエスチョンを意識して子どもと会話すること。
- ・体験を通して感じたことを言語化することの大切さ。
- ・手作りのプレゼントって大切であり、今までは買って満足していた。
- ・子どもが喜んでくれると思いながら、自分でも楽しくストーンアートを作ることができた。
- ・信じる体験!! 頼って、まかせて、失敗して、「思い通りにならない」が楽しめた。
- ・(子どもが活動するとき)危ないことに注意して終わっていた。可能性を消していたかも・・・
- ・子どもに戻ったみたいで楽しかった。
- ・自然の恵みを身体で感じ、開放的な気分になれた。
- ・便利に慣れすぎて、自然の中での活動を通して、生きていく力を失わないようにしたい。
- ・山登りを体験し疲れたが、自分が子どもころを思い出したり、自然を感じる大切さを子どもにも言葉にして伝えたりしていきたいと思った。

所バスの不具合による対応について

当自然の家で県の公用車として所有しているバス（45人乗り/以下「所バス」）が、諸事情により利用者の皆様を乗せて安全に運行することが不可能な状況となりました。年度途中で、すでにバスを予約されている利用団体の皆様、これから当所の利用をお考えの皆様に対し、大変なご不便とご迷惑をおかけしています。所バスの再配備につきましては、現段階では具体的な見通しが立っていないのが実情であります。

【今後の対応のお願い】

「スクールバス」「団体所有のバス」を使って来所していただくことが基本となります。それが難しい場合に、指定管理者 株式会社ひかり所有のマイクロバスを申請して調整させていただきます。（詳細は、メールで送信させていただいた9月12日付文書をご確認ください。）

利用団体様にお手数をおかけすることになり、誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。